第 2014-25 号

恵みと真理のニュース

2014 年 6 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 旦那を救ってくださり痛みがない 天国で安息を享受するようになさった神様の恵みに感謝します。

主日に一人で教会へ行くたびに他の夫婦が一緒に敬虔な態度で礼拝を捧げる姿と奉仕する男性の執事を見るととてもうらやましかったです。もし、旦那が最後までイエス様を信じなくて結局地獄に行くとどうしよう、気の毒で急ぐ心で旦那の救いが私の一番大きい希望であり祈り課題でした。一日も早く旦那もイエス様を救い主として受け入れ神様を畏れ愛し仕える信仰生活になるように切に祈りました。
“二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。”
御言葉を信じて旦那の救いに対する確信と希望を持って熱心に祈りました。お金も名誉も世の富貴栄華も旦那の救いより大事ではなかったです。聖霊様がある日、私の心に旦那の永遠の救いに対する信仰と恵みを下さってその時から感謝の祈りを捧げ始めました。
毎月少ない金額でも決めたとおりにこつこつ献金しながら愛する旦那を択んで救ってくださり子供になるように祈りました。
“ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。（ペトロの手紙３：９）
“主にのみ、わたしは望みをおいていた。主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。”（詩篇４０：１）
祈りしながらも答えが遅くなり信仰が弱くなると御言葉を黙想したり当会長牧師の説教を聴くと神様は慰めと希望の御言葉で私に新しい力を与えてくださいました。それから 10 年がたったある日、聖霊様は旦那を変化してくださり心に信仰の種を植え付けてくださいました。アンサン聖殿で旦那が始めて礼拝に参加してイエス様を救い主として信じ告白して決断をしたその日を私は忘れません。言葉では表現できないほど胸いっぱいになり感謝の心で神様に栄光を捧げました。
その後ソウルに引越ししなければならない状況になって祈ったら神様の摂理で当時その地域の貸しきり家の家賃より安い値段でカンナンでアーパトを私の名前で購入するようにしてくださいました。前もって予備してくださり導いてくださる神様を賛美し感謝を捧げます。私はアンサンで住む時から長い間右のわきの下が苦しくて動くと痛みがあって苦労しました。背中が重苦しくて座って起きると酷い痛みがありとても辛くて大変でした。しかし、ソウルに引越ししてまだカンナン聖殿が立てられる前でしたのでカチョン聖殿に通うときでした。主日に聖餐の礼拝を捧げ、神癒と祝福祈り時間に驚くほどの恵みを体験しました。当会長の牧師の話に従って痛い所に手をあてて“神様、原因が分からないこの苦しみと痛みを治療してください。”と祈りました。そして牧師が祝福する時に誰かの手が私の痛い所を触るように熱くなり治療の光が照らすように感じました。 私はすぐ“全能なる神様、治療の神様が今私を治してくださったことを信じます。”と言いました。すると苦しみがなくなり体がすっきりしました。神様は私の体を完全に治してくださいました。
ソウルに引越ししてカチョン聖殿で礼拝を休まずに捧げた旦那が忙しくて教会が遠いからといい訳をしながら一回二回休んで、ある日からはたまたま礼拝を捧げるようになりました。そうするうちに医療保険公団で健康診断の案内紋の葉書が届いて旦那に今回には健康診断を必ず受けるように進ましたが。しかし旦那は自分の体には異常がないと健康に自信を持っていて多い時間を無駄に使いました。そしてその年末に食べ物をよく食べなくて胃に何かかかっている感じで病院に行ったら癌の診断を受けました。青天の霹靂でした。健康な人が急に癌であるとは信じられませんでした。その時に私の隣に愛し祈ってくださる教区の人々がいて大きい力となり慰めになりました。私の一人では耐え忍べなかったと思いますが教会で教役者や長老や区役長と聖徒達も来てくださり私と旦那のため祈ってくださり慰めてくださいました。私の隣にはいつも神様が共におられ私のため祈ってくださる方々が多いいることがとても感謝でした。
旦那はその当時教会によく通わなかった時だったので教会から訪問して来るのが気まずくしたがすぐ伝道士の前で今まで我慢した涙を流しました。
主日と礼拝があるたびに痛い体で病院の中にある礼拝室に行って礼拝を捧げました。病院にいながら牧師がまず略式で洗礼を受けて続けて弟達の助けで正式で洗礼を受けました。そして何日後に平安な顔で痛みがない天国に召されました。教会の週報で今年の浸礼式の日程が載せられているのを見てその日の感激と感慨を新たにします。 旦那の葬式をする時にまるで自分のことのように教会で多くの方々が来られて慰められました。全ての方々の祈りと愛の苦労を私が返せないです。“神様、私と旦那のため苦労して祈ってくださった方々に神様を使えるのに副を与えてください。”その後からもっと神様に感謝し私も様々な苦労と逆境にある人のためにもっと祈るようになりました。
“恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。”（イザヤ４１：１０）
愛する旦那が先に天国に行ってこれからどうやって生きるか漠然とした私と娘を聖霊様が強く守ってくださり天国を希望しながら大きく苦しんだり落段しませんでした。旦那がいる時より神様に対する信仰と愛がもっと深くなりました。神様は娘に主をよく仕える職場を通うように恵みを与えてくださいました。そして旦那の葬式をきっかけとして旦那の兄と弟と妻達も次々イエス様を受け入れ今は神様をよく信じながら生活する姿を見るとただ神様に感謝するだけです。激しい波が多い人生の道に共におられ時によって愛と恵みを与えて下さる神様を賛美します。神様の恵みの中で常に感謝し自足するように助けてくださる恵みを受け職分を担えるようにさせる神様に感謝を捧げます。

［信仰コラム］ イエス様が私たちの信頼を見て

″…イエスのおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたまま、床をつりおろした。 イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。 …″(マルコによる福音書 2:1…12)

イエスの教えと、行った移籍と記事によって、イエス様に対するうわさが広く拡散されて行きました。神が巡回旅行を終えてカボナウムに戻ると人たちがイエス様がいる家に押しかけ始めて門の前まで足の踏み場がないようになりました。その時に床に寝た人を運んで来る人たちが現れました。その担架に載せられている人は中風病人でした。
イエス様の前に入れないようになった彼らは互いに相談した後、奇想天外な行動を敢行しました。中風病人が、横になった寝台を屋根の上に持っていきました。そしては以下、イエス様がいらっしゃる所を計って屋根を壊し始めました。塵と土の塊、ほこりが雨のように部屋にさし込んで、ついに屋根ががらんとしたら開いてなりました。人の視線が一斉に空けられた天井に集中された中、屋根の上の 4 人が中風の病人が横になっている床をロープでしっかりとゆわえつけて、下記で降り始めました。ややもするとミスすると、病人を落として死なせかねないので彼らの表情は緊張され、額には汗がにじんでいました。その時、イエスが彼らの信頼を見ました。担架が床に下されると、イエス様がおっしゃいました。″子よ、自分の罪を許された。″″起きて、担架を持って家へ行け″その瞬間、中風の病人がすぐ起きて彼が今まで横になっていた担架を持って家へ帰りました。

その家の内外に集まった人たちは空けられた天井を見ました。しかし、イエスは’私たちの信頼’を見ました。家にいる人たちはその無礼千万な人たちが誰かを確認しようと眺めました。しかし、イエスは’私たちの信頼’を見ました。人たちはその家の主人の顔色を見ました。しかし、イエスは中風の病人と寝台をつけて降りる人々の信頼を見ました。神様の関心は’私たちの信頼’でした。

’私たちの信頼’は、イエス・キリストに対する信頼感でした
彼らは、治療者のイエス様に対する信頼を持ちました。神が病気の者を直してくださることと信じました。彼らは’罪を許しているイエス様に対する信頼’を持ちました。神が罪人を救援するために来られたメシアーという事実を信じました。彼らはまた、’愛が多い、イエス様に対する信頼’を持ちました。彼らが障害物を克服してねばり強く執拗な努力と果敢な行動を敢行したものは全てキリストの愛に対する信頼から出てきました。神様がみた私たちの信頼はこのような信念でした。今日、私たちが持つことができる、イエス様に対する信頼は、この他にもたくさんです。
私たちに知恵を下さる神様、いろうを下さる神様、度胸のよさを下さる神様、保護してくれる神様、行く道を引き渡してくれる神様に対する信念をもたなければなりません。
’私たちの信頼’は行うことがある信頼感でした
中風病人は死だけ待っていませんでした。神ともに進む方法を模索しました。寝台を運搬した 4 人も同一の信頼を持ちました。いけないとかできないという考えをしないで’可能な道は何か’と考えている人でした。行動する信念を持つ人たちでした。彼らは損失と犠牲を喜んで支払いする覚悟ができていました。他人の家を毀損したので、原状復旧してくれなければならないのです。しかし、彼らが得られるものの価値に比べると、その損失と犠牲がとても少ないと思いました。病気を治してもらって自由に活動できるようになることに比べて何もありませんでした。その何もイエスケロブト罪許す受けることの価値を凌駕することはありません。″ある人には信仰があり、またほかの人には行いがある」と言う者があろう。それなら、行いのないあなたの信仰なるものを見せてほしい。そうしたら、わたしの行いによって信仰を見せてあげよう。。″(ヤコブの手紙　2:18)
イエスは今も私たちの信頼を見ます。また、行動として表れている信頼を見ています.そしてその信頼と行動による標的をくれます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

信仰で行うすてきな姿を見せた人々

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖徒らが他人に見える姿の中に一番すてきな姿は信仰から行う姿です．その信仰は神様が啓示なさった言葉に根拠した信仰です．聖書は神様が啓示なさった言葉が記録された経典です．聖書には信仰で行うすてきな姿を見せた人々に関して記録しておきました．ヘブル人への手紙 11 章はこれを集中的に扱っています．今日は 23 節から 29 節までに登場する人々をよく見ます．

信仰で行うすてきな姿を見せた人々の中に　一番目に登場する人物はモセの親です．
モセの家の系統をよく見ればイスラエル１２支派の中レウィ支派に属します．レウィは三人の息子を生んだが二番目の息子が ‘ゴハッ’ でゴハッの長子が ‘アムラム’ です．‘アムラム’ が ‘ヨゲベッ’ と結婚して ‘ミリアム’ ‘アロン’ ‘モセ’ を生みました．モセが生まれる当時イスラエル子孫はエジプトに居住していました．エジプト王はエジプトに暮しているイスラエル民族が生い茂ることを不満に思いました．そしてイスラエル民族を虐待したし結局はイスラエル民族を抹殺しようとする政策を広げ始めました．イスラエル男たちを国庫城の建築に動員して残酷で無慈悲に重労動をさせました．そしてイスラエル女人が男の子を生めばこれを殺すように産婆たちに王命を下げました．こんな状況でモセが出生しました．モセの親は王の命令を恐ろしくないて子供を隠して育てました．三月が経つと子供の泣き声が出てこれ以上隠して育てることができない地境になりました．モセの親は神様の攝理なさる手助けに任せることに決断しました．葦で箱を作って水が染みこむことができないように瀝青と木陣を塗った後その箱の中にモセを入れてナイル川におきました．そして　もしモセのために娘を送って遠く立って見守るようにしました．ちょうどその時エジプトの王パロの娘が侍女たちとともに風呂に入りに出て来て箱に赤んぼうが入れれていることを見つけました．その瞬間あわれな気がしながらその子供を連れて来て育てたい欲望ができました．その光景を見守ったモセの妹ミリアムが公州に近付いて “乳母を求めて上げましょうか?” と言いました．公州がこれを承諾するとミリアムは自分の母を乳母に薦挙しました.そしてモセは母が乳母になって乳はなすまで養育を受けるようになりました．こんな過程で私たちが見逃してはいけないことがあります．モセの親は “モセの尋常な子供ではなくて将来イスラエル民のために神様が使う特別な動き手になるでしょう.” という神様がくださるビジョンを持つようになりました．モセの親が危険をおかして子供を隠して育てたことはそういう信仰によるものです．子供を 葦の箱に入れてナイル川においたことも信仰で行ったのです．娘を送ってこれを見守るようにしたことも信仰で行ったのです．聖徒の皆さんも聖書の言葉に根拠してさまざまなビジョンを抱いて信仰で行ってください．

信仰で行うすてきな姿を見せた人々の中に二番目に登場する人物はモセです．

パロの公州は赤んぼうモセを乳母に任せたがその乳母がモセの母とは分からなかったです．モセが育ちながらその事実が分かるようになったはずです．モセは自分の血管にイスラエル民族の血が流れていることを分かりました．モセが成長した後自分の同族を面倒を見なくちゃいけないと言う考えが強烈になりました．ある日エジプト人がイスラエル人を虐待することを見て駆け付けてそのエジプト人を打ち殺して砂に埋めました．明くる日また出たらイスラエル人がお互いに争うことを見て間違った者に “君がどんな理由で同胞を打つのか?” と叱りました．するとその者が言うのを “誰がお前で私たちの法官をしたか? 君がエジプト人を殺したように私も殺そうと思うのか?” しました．それからモセを告発しました．エジプト王がその事件に対して聞いてモセを殺そうと捜しました．モセはエジプト王を避けてミデアン地に逃げました．これに対して聖書は記録するのを **“信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。”（ヘブル人への手紙 11:24～26)**と言いました．
ミデアンで 40 年の間羊飼い生活をしました．年が 80 になった時神様がモセに現われました．そしてエジプトに行ってイスラエル民を導き出してガナアン地で導きなさいという命令を下ろしました．モセはエジプトの王パロに行って神様の言葉を宣布しました．エジプト王はモセの要求を無視してしまいました．神様がモセを通じてエジプトに災いを下げました．ナイル川が血になる災い，蛙災い，ぶよ災い，あぶ災い，家畜に悪質が生ずる災い，人の身に毒種が生ずる災い，いなご災い，雹災い，夜が連続される災いが下ってもエジプト王パロは屈服しなかったです．すると神様がモセに特別な指示を下しました．“あなたがたはイスラエルの全会衆に言いなさい、『この月の十日におのおの、その父の家ごとに小羊を取らなければならない。すなわち、一家族に小羊一頭を取らなければならない。小羊は傷のないもので、一歳の雄でなければならない。羊またはやぎのうちから、これを取らなければならない。
そしてこの月の十四日まで、これを守って置き、イスラエルの会衆はみな、夕暮にこれをほふり、その血を取り、小羊を食する家の入口の二つの柱と、かもいにそれを塗らなければならない。そしてその夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならない。生でも、水で煮ても、食べてはならない。火に焼いて、その頭を足と内臓と共に食べなければならない　あなたがたは、こうして、それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ、足にくつをはき、手につえを取って、急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である。その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国におる人と獣との、すべてのういごを打ち、またエジプトのすべての神々に審判を行うであろう。わたしは主である。その血はあなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。わたしがエジプトの国を撃つ時、災が臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであろう。” モセは信仰で神様の指示を行いました．聖徒の皆さん，神様の言葉が理解されなくてもそのまま行ってください．神様の言葉どおり行えば神様が責任を負います．

信仰で行うすてきな姿を見せた人々の中に三番目に登場する人物はイスラエル民です．

自由を得てエジプトを去ったイスラエル子孫たちが神様が彼らの先祖に約束したガナアン地を向けて進みました．神様が雲柱を送って道を導いたし夜には雲柱に火があって火柱になりました．雲柱と火柱に沿って到達した所が紅海の海辺でした．イスラエル子孫たちが紅海の前の広野に閉じこめられたという報告を受けたパロ王は特別の馬と戦車 600 台とエジプトのすべての戦車を動員して余分の指揮官たちを連れてイスラエル子孫たちを追撃しました．紅海の海辺に帳幕を張って休んでいたイスラエル子孫たちは彼らを向けて駆けて来るエジプト軍隊を見ると恐ろしさに捕らわれてどうすることが分からなかったです．彼らはモセに恨む言葉を浴びせました．
モセが民に言うのを **“モーセは民に言った、「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主が　きょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい」。”（出エジプト記 14:13,14）** しました．モセが神様に叫んだら神様がおっしゃるのを “あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか。イスラエルの人々に語って彼らを進み行かせなさい。あなたはつえを上げ、手を海の上にさし伸べてそれを分け、イスラエルの人々に海の中のかわいた地を行かせなさい。.” しました．モセが神様の指示どおり海の上で手を出し伸べました．神様が大きい東風を送って海水が割れるようにして割れた水は左右に壁のようになって海の中に道が生じました．イスラエル子孫は雄大な二つの水の壁の間に生じた地を踏んで紅海を渡りました．エジプトの戦車たちと馬兵たちと軍事たちがすべてその後を追撃し始めました．この時神様が戦車のタイヤがはげるようになさったら　大きい混乱が起きました．馬兵と戦車と軍事たちがもつれてごちゃまぜになりました．予想する事が出来ない状況が起ると彼らが叫ぶのを “エホバがイスラエルのためにエジプト人々と争ったら，彼らの前で逃げよう.” しました．神様がモセに指示するのを **“そのとき主はモーセに言われた、「あなたの手を海の上にさし伸べて、水をエジプトびとと、その戦車と騎兵との上に流れ返らせなさい」。モーセが手を海の上にさし伸べると、夜明けになって海はいつもの流れに返り、エジプトびとはこれにむかって逃げたが、主はエジプトびとを海の中に投げ込まれた。水は流れ返り、イスラエルのあとを追って海にはいった戦車と騎兵およびパロのすべての軍勢をおおい、ひとりも残らなかった。.”** あっという間に海がエジプト軍事たちをのんでしまいました．イスラエル民たちは神様の言葉をそのまま信じて行ったから紅海を無事に渡るようになりました．その日イスラエル人々は信仰で行うすてきな姿を見せてくれました．

聖徒の皆さんは今日よく見たモセの親とモセそして紅海を渡る時のイスラエル民たちのようにいつでもどこでも信仰で行うすてきな姿を見せる人になるように願いします。